第2節　資料館における社会貢献活動

第8回公開授業『古代人の知恵に挑戦！－古代のお米をつくってみよう－3』を開催

はじめに

当館では、平成13年度より、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様に身近に感じていただくことを目的として、公開授業を開催している。

第8回目となる平成20年度の公開授業は、昨年度に引き続き、日本のお米のルーツとされる赤米をつくり、土器で炊いて食べてみるという内容である。今回は、埋蔵文化財資料館と山口大学農学部との共催で、吉田構内の山口大学農学部実習農場で延べ4回に渡って行い、小学生5人、保護者・一教育学部学生など21名、総勢26名の皆様に参加していただいた。以下、授業内容を報告する。

5月24日（土）－田植え－

好天の中、農学部附属農場のの長砂技術専門職員に代かきをしていただいた約80㎡の水田に田植えを行った。田植えは、田植え綱を基準に横一列に並んで行い、1箇所に3本の苗を植えた。初めて体験した参加者は、足が予想以上に泥に埋まるため動きづらそうであったが、次第に慣れてくると泥の感触を楽しんでいるように見受けられた。

7月19日（土）－雑草取り－

稲は約50～60㎝に生長した。参加者はまず、長砂技術専門職員から稲の状態と雑草についての解説を受けた。水田には一面に「コナギ」を中心とする雑草が多く生えたため、稲は雑草に栄養分を取られたためか、葉がやや黄色い状態となっていた。その後、参加者全員で協力して除草を行った。雑草を抜くと、根が深く張っていることが分かり、稲が栄養不足になる状況を知ることができた。除草後は、実習室に移動し、アワビの貝殻を材料として、秋の収穫に備えた貝庖丁づくりを行った。

9月20日（土）－収穫－

昨年同様、大きな台風もなく、秋晴れの晴天の中、無事に収穫を迎えることができた。最終的に稲は長さ約90～110㎝まで生長した。稲の成熟状況にはばらつきがあり、すでに熟したものもあったが、まだ青い穂も散見される状態であった。収穫には参加者が製作した貝庖丁、模造した木庖丁、石庖丁などを使用して穂摘みを行い、残りは鎌で根刈りをしてはぜ架けをした。参加者からは「自分でつくった貝庖丁がとても収穫しやすいので、驚いた」「貝庖丁・木庖丁・石庖丁のうちでは石庖丁が使いやすかった」などの声が聞かれた。

10月4日（土）－脱穀・籾すり、赤米を食べる－

前回同様、秋晴れの晴天の中、公開授業最終日を迎えることができた。参加者は、まず、足踏み脱穀機による脱穀や唐箕による選別を体験した後、箸こぎ、臼と杵による籾すり、てみとザルによる選別を体験した。参加者は足踏み脱穀機・唐箕を使用するのと比較して、臼と杵による籾すり、てみとザルによる選別が大変手間と根気がいることを体感した様子で、最後にはかなり疲れた様子であった。残りの籾は精米機で籾すりを行い、全収穫量を計量した結果、玄米で約11.4kgであった。

昼食には土器で白米4合に赤米0.5合を混ぜたご飯と赤米のみ3合のご飯を炊飯した。炊きたての赤米を試食すると、現在のお米よりもやや硬いものの、ほのかに甘い味であった。そのほか、おかずにはアユの塩焼きや磯鍋、モクズガニのスープ、シジミのすまし汁をつくった。これらも大変美味しく、参加者に好評であった。

写真277 種まき（4月21日）

写真278 代かき（5月23日）

写真279 苗の観察（5月24日）

写真280 田植え（5月24日）

写真281 雑草の説明（7月19日）

写真282 雑草取り（7月19日）

写真283 貝庖丁づくり（7月19日）

写真284 赤米の花（8月8日）

写真285 稲の観察（9月20日）

写真286 石庖丁による収穫（9月20日）

写真287 臼と杵による脱穀・籾すり（10月4日）

写真288 土器による炊飯（10月4日）

写真289 食事風景（10月4日）

写真290 参加者の皆さん（10月4日）

公開授業を終えて

公開授業終了後、参加者からは「古代米をつくることを通じて様々な体験をすることができ、とても勉強になりました」「籾すりをして赤米ができた時には単純にうれしかった」「土器で炊いたお米は本当においしかったです」などの声が寄せられ、授業の目的を達成することができたと感じている。

また、今回は、水田に雑草が非常に多かったこと、稲の生育にこれまで以上のばらつきがあったことが印象的であった。今回は前回までと会場が変わり、農学部附属農場での開催となったが、同農場の教職員をはじめ多くの方々に支えられて、盛況のうちに公開授業を終了することができた。館員一同心より御礼申し上げたい。

『野焼き体験・古代人に挑戦』作品展を共催にて開催

平成19年度に実施した地域NPO法人「子どもとともに山口県の文化を育てる会」との共催企画『築窯ワークショップ～野焼き体験・古代人に挑戦～』にて焼成した粘土作品の成果展を、平成20年9月8日から9月19日の期間、山口県庁1階ロビーにて開催した。

ワークショップでの模様は『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成19年度－』に詳細を記したが[註1]、1月末の寒風の下、NPO法人スタッフ、当館スタッフ、そして参加者で5基もの覆い焼き窯を築き、約23時間かけて作品を焼き上げたことを、残暑厳しい晴天の下で懐かしく思い出しながら展示の準備を行った。

県庁職員には多少申し訳ないが、日頃重苦しい雰囲気につつまれている山口県庁ロビーが、子どもたちの楽しい気持ち、真剣な眼差しが見事に表現された粘土作品群に満たされ、雰囲気が一変していることが写真291、292からお分かりいただけると思う。

この様な環境下、当館の展示行為が子どもたちの美しい芸術作品の妨げにならなければ良いが、との危惧もあったが、共同で焼成した記念にと思い、ワークショップ時に焼成した復元弥生土器と窯体の残欠、そして覆い焼き模型を当館ブースにて展示した。また、小難しい解説パネルは不要と考えたが、当館の共催意義を鑑み、弥生土器の実物写真パネルと、本学学生の弥生人扮装写真パネルも展示させていただいた。

山口県庁は平日のみ入庁可能であるため、展示期間中会場を訪れることはできなかった。会期終了後、会場に設置された感想ノートを拝読し、展示が成功裏に終了したことを知った次第である。観覧に訪れて下さった方々には、本書にてお礼申し上げたい。

また、2年間に渡る取り組みを支えていただいたNPO法人スタッフ、地域の皆さま、参加校諸先生方、そして何より作品をつくった子どもたちに感謝の気持ちを伝えたいと思う。今後も各種団体から同様の協力依頼があった場合は積極的に参加してみたい。

［註］

1）横山成己（2011）「『築窯ワークショップ～野焼き体験・古代人に挑戦』を開催」，山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成19年度－』，山口

写真 291　展示の模様①

写真 292　展示の模様②

中学生の職場体験を受け入れ

平成20年8月26日から27日の両日にかけて山口市立平川中学校生徒2名、平成21年2月2日から3日の両日にかけて山口大学教育学部附属山口中学校生徒2名に対し、職場体験の受け入れを行った。

平川中学校生徒2名は、初日午前に遺跡の発掘調査方法の学習し、午後から(財)山口県埋蔵文化財センターの協力により朝田墳墓群の発掘調査を体験した。2日目午前は吉田遺跡出土遺物の接合・復元作業を、午後から復元部の彩色作業を体験した。両名とも残念ながら本来は当館ではなく他分野の職場体験を希望したとのことであったが、根気のいる作業を熱心かつ丁寧にこなす姿が見られた。

山口中学校生徒2名の受け入れ期間は当館発掘調査期間と重なったため、両日吉田遺跡にて職場体験を行う予定であったが、初日が雨天により発掘中止となったため、急遽室内で遺物への注記作業、報告書刊行のための実測図割付、トレース作業を体験した。2日目は好天に恵まれたため、終日吉田遺跡にて遺構掘削を体験した。後日山口中学校長より「1名は将来考古学者になりたいと言っていた」と聞くに及び、当館による職場体験受け入れが生徒にとって有意義なものであったことを実感した。

写真 293　教育学部附属山口中学校生徒の職場体験①

写真 294　教育学部附属山口中学校生徒の職場体験②

写真 295　山口市立平川中学校生徒の職場体験①

写真 296　山口市立平川中学校生徒の職場体験②